

10月24日 「木曾悠久の森」で名古屋大学生が森林学習

【木曾森林ふれあい推進センター】

10月24日、名古屋大学農学部3年生他19名が木曾地方の天然林を学習するため赤沢自然休養林を訪れました。

木曾郡上松町の小川入国有林内にある赤沢自然教養林は、中部森林管理局が天然のヒノキ、サワラ等を含む温帯性針葉樹林を厳格に保存復元するために木曾地方の国有林内に設定した「木曾悠久の森」（面積1万7千ヘクタール）の中にあります。

今回の実習では、「木曾悠久の森」の核心地域に位置する赤沢自然教養林と学術参考コースを当センター職員による案内により、木曾ヒノキ等の成り立ちや木曾谷林業の歴史、伊勢神宮御用材に係る伐採行事、「木曾悠久の森」の保存・復元に係る取組等について約4時間をかけて学習しました。



「木曾悠久の森」を眺める学生

また、説明の道中には名古屋大学・群馬大学等が長年にわたり共同調査を行っている「赤沢ヒノキ林共同試験地」もあったことから、大学の先輩方が取り組んでいる調査・研究も紹介できました。

学生からは「300年前から守られてきた森林を歩くことで座学では想像できなかった時間軸が分かって良かった」

「赤沢自然休養林及び木曾悠久の森は、長きにわたって保護されるべき重要な森林であることを実感した」等の感想をいただき、木曾ヒノキを始めとする温帯性針葉樹を身近に感じられた良い実習になったようです。



赤沢ヒノキ林共同試験地での説明

当センターでは赤沢自然休養林等における森林学習を通して、これからも「木曾悠久の森」の取組をPRしていくこととしています。